



新刊の案内

9月11日といえば、NYの同時多発テロを思い出す人が多いことでしょう。このような事件を考えると、私はいつも、被害者の悲しみの大きさだけでなく、加害者の苦しみの大きさを感じます。苦しみが大きいと怒りが現れ、誰かを批判したくなります。しかし、批判だけでは、社会はよくなりません。

今の日本はどうでしょう？コロナ禍のため、多くの人々が苦しんでいます。最新の統計では、8月の自殺者は1849人と、昨年とくらべて246人増えたとの報告がありました。その背景にも、苦しみの大きさを感じます。人は、苦しいとき、誰かを批判するだけではなく、自らを攻撃するからです。

なぜ、人は苦しまないといけないのでしょうか？苦しみは、希望と現実の開きです。希望が大きければ大きいほど、厳しい現実が絶望として私たちの心に重くのしかかります。

果たして、様々な苦しみを抱えている私たちは、笑顔になれるのでしょうか？

いのちに関わる仕事、とくにいのちが限られた苦しみを抱えた人とその家族の支援にあたってきた経験から、人は、たとえ大きな苦しみを抱えたとしても、笑顔になれる可能性があることを学び、実践してきました。その経験を元に、FBで発信してきたコラムを1冊の本にすることができました。9月発売の新刊「苦しみのない人生はないが、幸せはすぐ隣にある」（幻冬舎）です。

苦しむ人が笑顔になれるのは、決して一部の専門家しか行えない特別な方法ではありません。

自分の苦しみを、たった1人でもわかってくれる誰かがいれば、たとえ真っ暗闇としか思えない絶望の中でも、一筋の灯りを見つめることができるのです。

誰かを批判するだけではなく、私たちにできることがあります。その可能性を、思いを込めて形にしました。今の日本で、苦しんでいる多くの人に届くことを心から願っています。

あなたは、
誰かの支えになれる。
たとえどんな
あなたであったとしても。

（小澤竹俊）

エンドオブライフ・ケアを学ぶ学生の集い場

コロナ禍で苦しむのは学生も同じです。入学しても一度もキャンパスに行くことができず、希望していた大学生活を楽しむことができない。クラブ活動もアルバイトもできず、経済的に厳しくなってしまう、休学を考えてしまう…。そのような学生に、エンドオブライフ・ケアで学んできたエッセンスを通して、苦しみと向き合う生き方のヒントを学ぶ場を提供したいと考え、9月14日夜に「エンドオブライフ・ケアを学ぶ学生の集い場」を主催し、学生30名、ELC認定ファシリテーターと社会人を含めて60名の参加がありました。第1線の医療・介護現場で従事する大人と、これから社会で活躍する学生が、問いを立てた上で対話を通して学ぶことは、ともに刺激的な時間となりました。次回は11月9日（月）夜7時からを予定しています。関心のある学生さんに声をかけていきたいと思えます。

『今日が人生最後の日だと思って生きなさい』（24万部突破）著者、最新作！
がん、突然の事故、新型コロナ……
理不尽な世界にも、かならず救いがある。

「あいたいよ パパ」
最愛の父に向けた少女の「詩」

「はやく楽になりたい」
末期がんの70代男性が最後に見せた「笑顔」

「ありがたうって言いたかった」
たった一人の家族だった74歳の母親を亡くした43歳女性の「後悔」

「涙が溢れてきた」
乳がん治療に苦しんだ40代女性が本棚で見つけた「支え」

「いつも、誰かのことを」
難治性の肺がんで衰弱した80代男性が自宅で語った「救い」

「生まれ育った故郷はどこですか？」
元・戦国機整備士の老人との「会話」

苦しみのない人生はないが、
幸せはすぐ隣にある

小澤竹俊

全国の緩和ケア関係者からも感動の声、精々3500人以上を看取ったホスピス医が語る、希望の物語。

診療実績

	2006-2019年	2020年 1-5月	6月	7月	8月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	3,442	627	657	687	5,413	86,522
自宅永眠	2,470	74	15	11	20	120	2,590
施設永眠	409	27	7	2	4	40	449
在宅 (自宅+施設)	2,879	101	22	13	24	160	3,039
病院永眠	794	31	6	5	4	46	840